

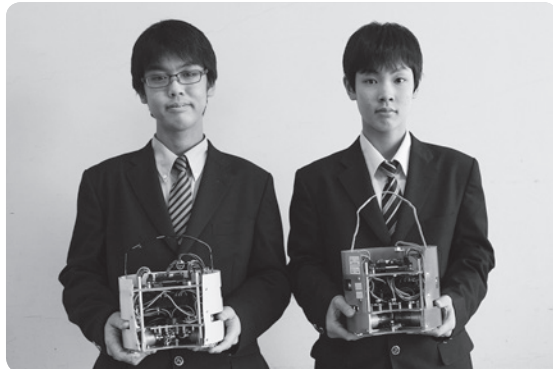
まちのたから

# 発見



## サッカーで人間に勝つロボットを

— 吉村侑恭さん・流星さん(大窪5区) —



▲ロボットを手にする吉村侑恭さん(写真左)・流星さん(写真右)

### ●切磋琢磨し、さらに上を

吉村侑恭さん(兄)・流星さん(弟)のご兄弟は、3月22日23日に埼玉で行われたロボカップジュニア日本大会2014に昨年に引き続き出場されました。

お二人が出場された大会は2050年までに人間のサッカーワールドカップの優勝チームにロボットのチームが勝つという目標のもと、ロボット同士がサッカーで対決する大会です。ロボットの設計をはじめ、白線を出ないように色を識別するセンサーや方角を判別するセンサーなどを取り付け、プログラミング等をすべて自分達で行いロボットを作り上げます。大会等で知り合った仲間と情報交

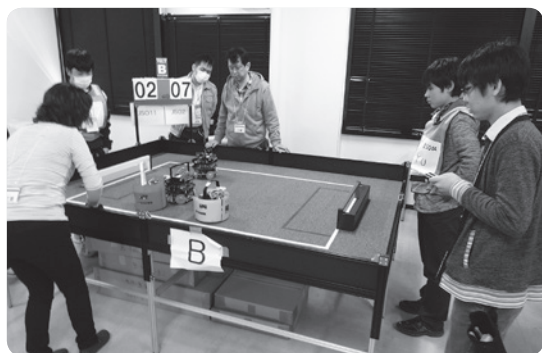
換し、兄弟で協力して試行錯誤しながら次々と新しい技術を取り入れておられます。

ロボットの魅力について、侑恭さんは「ロボットは自分の作りたいと思ったものを作れるのが楽しいです」、流星さんは「自分が思ったとおりにはいかないこともあります。でも上手くいくと嬉しくて、その瞬間が好きです」と話してくださいました。

### ●兄弟で積み重ねた努力

お二人がロボット作製を始めたのは3年前。ロボットの作製やプログラミングなど科学の面白さやコミュニケーションの重要性を伝える活動をされている日野サイエンスクラブに入

会されたことがきっかけです。自由に動き回るロボットを目にして「すごい!」と思われたそうです。侑恭さんがパソコンを使うことが得意だったこともあり、ロボットを作るおもしろさに惹かれたお二人。家でも二人でロボットについて話しあい、改良を重ね、7体ものロボットを作られました。今やお二人の名は全国でも知れ渡っています。将来「ロボットやコンピュータなどのプログラミングをしたいです」と侑恭さん。流星さんは「一人の役にたつロボットをつくってみたいです」と話してくださいました。お二人の作ったロボットが私たちの生活を豊かにしてくれる日が来るかもしれません。



▲大会ではロボットを信じて見守ります

## 日野町消防団が日本消防協会定例表彰と地域活動表彰(消防庁長官表彰)を受賞

日野町消防団は、地域に密着した消防機関として「わがまちを災害から守る」という使命感のもと、地域の安全・安心のために日々活動をいただいています。

このたび、こうした活動が認められ、日本消防協会定例表彰ならびに地域活動表彰(消防庁長官表彰)を受賞されました。受賞おめでとうございます。これからも、日野町の安全・安心を守るためよろしくお願ひします。

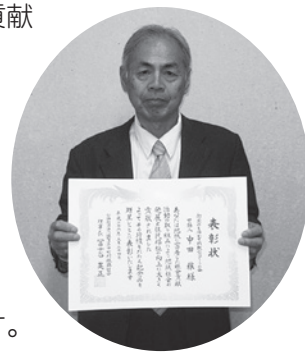


## 「街並みを活かす<sup>さしきまど</sup>棧敷窓<sup>たかぢまど</sup>アート<sup>あーと</sup>の会」が地域に密着した社会貢献活動表彰を受賞されました

アートを通じて、町の活性化と、会員、住民および観光客の交流により生きがいを得ることを目的として活動されている街並みを活かす棧敷窓アートの会(中田穰世話人)が、公益財団法人滋賀県市町村振興協会による地域に密着した社会貢献活動表彰を受賞されました。

皆さんは、棧敷窓がある昔ながらのまちなみをいかして、地域住民の方とともに棧敷窓アートなどのイベントを開催され、町の活性化に貢献されています。

受賞おめでとうございます。



▲賞状を手にする中田穰世話人